

榊の湯の湯治場跡



榊の湯の湯治場跡



御湯神社



旧岩倉温泉の泉源貯水タンク



旧国民宿舎岩倉ロッジ

津田内山地区の切石谷にある榊の湯の湯治場跡で、高い所に見えるのが御湯神社でその下から湧出していた水は竹の樋で右側の大岩上から流れ落ちていたようであるが現在はほとんど湧出していないようである。

左上画像中央付近に石積みが見られその向うに大岩があって、右側平坦地に小亭が設けられ湯治客が諸病を療やしていたようである。

江戸期の資料によると文政12年(1829)5月に内山の住人又七(一書に五七とあり)が泉源を発見したようで、眼病に良く効くとされ中尾山湯尾大明神(一書に中尾山真榊御湯神社とあり)を祀ったようである。

榊の根より湧き出るために津田町文豪広兼臥天の命名で榊の湯と名付けられたようで、明治36年(1903)の津田邨雑誌には体毒を取って諸病を療やす温泉とあり、大正7年(1918)の佐伯郡誌には眼病や皮膚病に効目があったようで、上に小祠があって下に小亭があり夏季には閑遊を食する人が多かったとある。

地域の人の話によるとかつて泉源から竹の樋で大岩の上から流れ落ちていたようで、廿日市方面からも一升瓶を持ってきて汲んでいたそうである。

かつてこの谷上流部で榊の湯が湧出していたので、ボーリングをして温泉成分がある水(単純弱放射能冷鉱泉)を泉源貯水タンクに溜めてここから引水して昭和41年(1966)開設した国民宿舎岩倉ロッジ(岩倉温泉)の温泉水として利用していた。